

## ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 今田 愛也

作成日 2024年2月26日

### 【責任】

薬物治療学分野に所属し、主に臨床現場で汎用される薬物の使い方を中心に教育・研究活動を行っている。特徴的なものに、がん終末期の患者の痛みに対する除痛のための薬物療法を講義している。また、研究は、妊婦への薬物療法の適正化をライフワークとしている。臨床現場に派遣されている教員として、1-6年次の担任および4-6年次卒業研究時の学生に対して医療人としての態度を見せたい。校務では、インターネット環境の整備、100周年記念会館（図書館）の利用促進を行っており、よりよい学生生活を送っていただきたい。

### 【理念】

薬剤師は、薬物療法全般に対する責任を果たすために、日々研鑽する。薬物を投与される前、投与された後の患者のイメージを描くことは、臨床での実践を経験しなければできないだろう。そのため、私は、天使病院に派遣されている強みを活かし、臨床系の講義、実習、演習では、目の前に薬物治療が必要な患者が存在することを意識できるような教材を学生に提供したい。臨床現場での薬物治療の情報収集に心がけ、生きた教材から、患者を助けるために、①どんな知識が必要か、どこからその知識を収集するのか、②薬物投与も含めた治療前、治療中、治療終了後までのフォロー、また、③状況によっては臨床研究において薬物治療法のエビデンスを構築するなど、チーム医療のなかで薬剤師として、どのように患者とかかわっていくかを学生と一緒に考えていきたい。さらに、その延長線上には、実臨床での基本的な対応ができることを目指したい。

### 【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「なぜ」という疑問を抱くような講義、実習、演習を行う。ただし、「なぜ」とは、誰にとっての疑問なのか？ 果たして、今思っている「なぜ」は一般常識であり、「なぜ」と思っているのは自分自身だけではないか？ など、疑問の出どころを正しく判断できるように、また、医療教育を受けていない「患者」が抱く、治療や投薬に対して湧き上がってくる疑問に対してわかりやすく説明できる知識、技能、態度を身に付けるために、Ⅰ～Ⅲの項目について説明する。

#### Ⅰ 知識を身に着ける

講義の中で、薬剤師の目線、患者の目線など学生に目線を変えさせて、その立場になって考えることができるような教育を行う。相反する立場での見かたは、疑問を抱くチャンスとなり、解決するためにどのような知識が必要かを習得することができる。そのため、講

義は、導入部分を大切にし、ゆっくり話し、学生が考えるための時間を取れるように工夫する。最後に適宜、まとめのスライドを入れ知識の定着をさせる。

## Ⅱ 医療人としての態度を身に着ける

医療人として態度は、患者中心の医療において最も重要な位置づけであることから、実習、演習を通して個々の学生に気を配りながら行う。患者に接する態度は、他の医療従事者への対応にもつながり応用することができる。また、態度には、知識や技能が付随して現れるので、単に、一般的な身だしなみや態度が良いだけでは、医療現場において望まれる結果とはならない。そのため、Iで示した知識の取得が必須である。

## Ⅲ 卒業研究において薬物治療のエビデンスの構築する

卒業研究は、私の派遣先である天使病院（札幌市東区）において調査、研究する。テーマ毎に、物事の考え方、取り組み方など1-5年次のカリキュラムを通して得た「知識のinput、output」を重点に行っている。そのために、個々の学生とのディスカッションを大切にしている。

### 【成果・評価】

授業評価アンケートでは、講義の導入部や、その時々「まめ知識」、たとえば、薬物療法にまつわる歴史や事件などに、よい印象をもたれている結果であった。卒業研究の一部は、学会発表を実施している。

日本薬学会北海道支部 医療薬学貢献賞 受賞

### 【目標】

短期目標：講義科目において「考える」時間を増やしたい。そのためには、適切な時間配分を考慮した講義内容の組み立てや、Zoomによる補助講義録画をMoodleにUPし、資料として利用させたい。

長期目標：単なる薬剤師国家試験対策としての大学生活でなく、豊かな人間性、臨機応変できる対応能力を備えた薬剤師を育てたい。